

# 煌めく富山の女性 ロールモデル Vol.3

～ 農・林・漁業で活躍するトップレディー～



ロールモデルとは、『模範となる人』として将来こうありたいと目標にする存在であり、スキルや具体的な行動を学んだり模倣したりする対象となる人材を意味します。

## はじめに

富山県農山漁村女性活動推進会議は県内の農林漁業関係の6団体で構成され、農山漁村と農林漁業における女性の活躍を推進しています。県内には女性農林漁業者がいきいきと活躍されている優良事例が沢山あります。そこで、特に優れた事例を紹介しようと、令和元年度から『煌めく富山の女性ロールモデル～農・林・漁業で活躍するトップレディー～』を作成しております。

今回は、それぞれのスタイルで、農業・林業・漁業に誇りをもって携わる8名の女性にインタビューさせていただきました。そして、就業に至る経緯や、職業あるいは地域活動に取り組む上で、どのように考えて前に進んできたか、また、実際のライフスタイルなどをお聞きしました。

この冊子を読まれた方は、きっと共感や新たな気づきを持たれることと思います。そこから勇気づけられ、未来への一歩を踏み出すきっかけになっていただければ幸いです。

そして、富山県の農林漁業や農山漁村地域の図り知れない魅力や、次世代に向けた夢と希望を感じていただけることを切に願うばかりです。

富山県農山漁村女性活動推進会議 会長 谷井 悦子

掲載にあたり：8名の方へのインタビューは2021年7～10月に行いました。

内容はその時点のものであることをご了承下さい。



# も く じ

## *Interview*

STYLE 1	ありさわ 有澤	みちよ 美千代さん	富山市	1
STYLE 2	すずき 鈴木	かつえ 活恵さん	南砺市	3
STYLE 3	たかばやし 高林	みさ 美沙さん	氷見市	5
STYLE 4	はまだ 濱田	りつこ 律子さん	黒部市	7
STYLE 5	ひえなえ 稗苗	ふみえ 史絵さん	魚津市	9
STYLE 6	まつの 松野	ゆか 由佳さん	黒部市	11
STYLE 7	もりた 森田 いけだ 池田	みずほ 瑞穂さん かおる 薫さん	高岡市	13

## 各種窓口

有澤 美千代さん  
Arisawa Michiyo



富山市

農業

ハーブファーム  
とむそらや  
富夢創野

[キーワード]

ハーブ  
家族経営  
農家カフェ

Profile

- 2002年 ハーブを栽培する夫との結婚を機に就農
- 2008年 ハーバルセラピストの資格取得後、カフェをオープン
- 2019年 夫と家族経営協定を締結

ハーブを専門に取り扱うハーブファーム富夢創野で、ハーブ苗の生産、カフェ運営、情報発信を中心に経営に携わる。持ち前の観察力と行動力で、お客様のニーズや時代の変化を敏感に感じ取り、それを経営に反映させている。



—Interview—

■ 就業のきっかけ

富山空港の地上スタッフの仕事を辞め、園芸店で働いていたときに、お客様として来店していた夫と出会いました。彼が楽しそうに農業をやっている姿を見て、そこに自分も加わり、支えていきたいと思い、結婚をしました。それが、農業を始めたきっかけです。

■ 仕事や地域活動のこと

富夢創野は、ハーブを専門に扱う農園で、約300種類のハーブ苗を生産販売しています。敷地内にハーブティーを飲めるカフェがあり、ハーブを使用した雑貨も販売しています。約10,000㎡の中に、ハーブ苗の生産用のハウスが3棟、ラベンダー畑、ブルーベリー畑があります。ラベンダー畑では、6月中旬～7月上旬に花の摘み取り体験を受入れています。

仕事の内容は、ハーブ苗の栽培管理が7割、カフェ運営が2割、情報発信が1割です。

ハーブ苗を300種類以上も作っている理由は、ハーブ苗専門の直売所として、他では手に入らないハーブも提供し、お客様に喜んでもらうためです。取り扱うハーブの種類は、夫婦で話し合いながら決めています。

カフェでは約30種類のハーブティーを提供しています。一般的に馴染みの薄いハーブも扱っています。それぞれのハーブの味や薬効を、お客様に体験していただきたいので、基本はブレンドではなく単品で提供をしています。

ハーブティーとともに食べていただけるよう、ケーキやパフェも提供をしています。材料は、農園で穫れたブルーベリーや地元の池多リンゴを使っています。できるだけ、地元産を使うことにこだわっています。

情報発信では、ブログやHPの更新、ダイレクトメールの作成などは私が担当しています。パソコンを使っているいろいろやってみたくてという好奇心があったので、自主的にそれらの仕事をするようになりました。





#### ーカフェを始めたきっかけ

カフェを始めたきっかけは、お客様からの要望があったからです。それまでは、ハーブを生産するだけでしたが、「こののどかな空間で、ハーブティーを飲めたらいいよね。」とお客様の声が増えてきました。当時はハーブ苗の生産だけで手いっぱいでしたが、何かちょっとでもお客様の要望に沿いたいと思い、ハーブティー提供のために必要な許可を調べ、カフェ運営の時間が確保できるよう作業計画を考えました。

#### ー夫婦で農業をする際に心がけている事

情報共有を心がけています。変化に気づいたら、自分の中だけで終わらせず、良いことも、悪いこともお互いに報告し合います。また、仕事の役割分担をしながらも、お互いの仕事を全部把握し、どちらかが不在の場合でも、相手の仕事ができるようになっています。

#### ーハーバルセラピスト※の資格取得について

カフェでハーブティーを提供するのであれば、薬効も伝えられるお店にしたいと思い、講習を受け、資格を取得しました。資格を取得したことで、生活の色々な場面でハーブが役立てられることをより深く学べ、ハーブの育て方だけではなく、利用方法もアドバイスできるようになりました。

#### ■家族経営協定の締結について

夫が就農して約20年、カフェをオープンして約10年となったのを契機に、改めて、農業経営の方針や役割分担を確認するために家族経営協定を結びました。作業分担がはっきりしたので、責任をもって、自分の仕事の管理がしやすくなりました。

#### ■これからのこと

経営を始めた当初から、従業員を雇用せず、2人でできる範囲で農園をすることとしてきました。なるべく効率をよくなり、2人が歳をとっても継続できるような農園の形を模索しているところです。

#### ■目標やモットーとしている事

日々改善を心がけています。どのような方法であれば、楽しく経営を継続できるか常に考えるようにしています。そして、よい方法を思いついたら即実行します。例えば、除草作業ですが、毎日の家事作業の一環として、習慣化することで負担なく続けられています。

#### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

お客様がいるおかげでハーブの生産を続けることができます。お客様を観察し、どのようなものを要望しているかくみ取り、要望に沿ったものを生産する必要があります。自分たちの信念は曲げないようにしながらも、お客様のニーズに合わせ、柔軟に取り入れられることは取り入れた方がよいと思います。

また、世の中の流れをくみ取るために、常に情報収集を行い、先行して新しいものを取り入れるとよいと思います。

※「NPO法人 日本メディカルハーブ協会」が認定するハーブ精油を活用した健やかなライフスタイルを提案できる専門家のこと。





鈴木 活恵さん  
Suzuki Katsue

南砺市

農業

(農) ファーム  
やおとめ  
八乙女

[キーワード]

営農組合  
農産加工  
地域貢献



Profile

2005年 (農) ファーム八乙女の設立とともに、就職  
2006年 野菜の知識や栽培技術習得のため実家の農地で野菜栽培を開始する  
2010年 農産加工品開発に中心的に関わり始める

(農)ファーム八乙女で、事務や農産物加工、野菜栽培に携わる。前向きに楽しく仕事をする姿勢と、持ち前の観察力による作業改善や効率化に関する提案が、大規模集落営農組合を支えている。

—Interview—

■ 就業のきっかけ

「ファーム八乙女」が設立される時に、事務員をやってもらえないかと、声をかけられたことが就業のきっかけです。

子育てのために仕事を辞め、10年以上専業主婦をしていました。その後、10年間パート職員として農協に勤めていましたが、フルタイムで仕事をしなければと、1年間職業訓練校で勉強をしました。卒業後就職を考えているタイミングで今の会社の方から声をかけられました。最初はあまり乗り気ではなく、1年だけのつもりで就職をしましたが、今も続いています。

■ 仕事や地域活動のこと

ファーム八乙女は、経営面積が約155haで、110haの水稲を中心に大麦・大豆・野菜の栽培と農産物加工をおこなう大規模集落営農法人です。私の仕事は、米の販売や会計などの事務作業が中心ですが、

農産加工品の開発やミニトマトなどの野菜の栽培管理も担当しています。

事務の内容は、お米や加工品の発送、農作業を手伝いに来てくださった方への支払い、預かり米※の管理・宅配などです。また、ファーム八乙女では、地域の方が栽培された野菜を集荷し、スーパーに出荷もしているので、それに関連する事務もしています。

農産加工品の開発は、中心となって取り組んでいた、初代組合長が辞められた後に、私が担当するようになりました。従業員の方と試行錯誤しながら、レシピづくりや作業の改良に取り組んでいます。

農産加工品のうち「寒もち」、「切り餅」、「生餅」、「おこわ」は、自社で栽培したもち米で作っています。もち米以外の副材料も、できるだけ、無添加で、地元の材料を使うように心がけています。

※1年分まとめて注文していただいたお客様のお米を会社で保管するサービス





例えば、「寒もち」に加えるシソの粉は地域の方が栽培したシソを自社で漬け込み粉にし、金ゴマは自社で栽培したものをそのまま使用しています。また、お客様に喜んでいただくために、1年に1品は新商品を作ることを目標に、取り組んでいます。

ファーム八乙女では、水田を活用した大規模な野菜栽培と、畑やハウスによる直売所向けの野菜栽培を行っています。私が関わるのは、畑やハウスによる野菜栽培です。品目は、大根、白菜、キャベツ、ブロッコリーなどの定番野菜が中心ですが、新顔野菜や、消費者の皆様が「手に取ってみたい。」と思われるような品目にも挑戦しています。

ハウスでは、ミニマトやスナップエンドウを、自動灌水で栽培しています。両品目とも、基本的な栽培管理は露地栽培と変わりませんが、その中でも施設に合ったやり方を、一年一年工夫・改善し、やり始めたことが継続できるよう、作業の効率化を図っています。ミニマトは5年目になりますが、収量・収益ともに伸びています。

#### 一野菜栽培の知識や技術について

ファーム八乙女が、地域の方の野菜を集出荷する取組みを始めた時に、実家の土地を借りて自分自身の勉強のために野菜栽培を始めました。

いつの間にか、ファーム八乙女の実験農場となりましたが、自分自身で栽培することで、野菜の味や栽培管理の方法だけでなく、必要資材や労力がわかるようになりました。こうした、自分で身につけた知識や技術を活かして、自社で栽培したらよいと思う品目を提案し、栽培してもらっています。

#### 一地域活動について

ファーム八乙女では、毎年14歳の挑戦や地元の小学生を受入れて、田植えや稲刈り体験をしていただいています。子供達からは、農業体験の感想やお礼のメッセージが送られてきます。

#### ■目標やモットーとしている事

「楽しく仕事をする！」をモットーにしています。楽しく仕事ができれば、仕事の質や効率が気づかないうちに高まっていると思います。

人から依頼されたことは、初めてのことでも挑戦をします。完璧にできなくても、自分で実際に取り組んでみるのが大切だと思っています。満足できる仕上がりではない場合、上手くいく方法を考えながら、先進地に勉強に行くなど、実際に行動してみます。

#### ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

仕事帰り、自分の畑へ行き、野菜の世話をすることがリフレッシュになっています。疲れたなと思ったときも、夢中で野菜の世話をすることで、気持ちの切替えができています。

#### ■雇用就農を希望している方へのメッセージ

農業法人で働く場合、高齢の方と接することが多いので、そのような方と仲良くして色々なことを感じてもらいたいです。今まで見えていなかったものが、見えるようになると思います。

また、農業に関する研修に参加する際は、講義を受講するだけでなく、他の参加者といろいろな話をして視野を広げてください。





高林 美沙さん  
Takabayashi Misa



氷見市

林業

富山県  
西部森林組合

[キーワード]

森林整備  
森林施業プランナー  
森林組合職員

### Profile

2018年 「とやま農林漁業就業支援フェア」で林業と出会い、富山県西部森林組合へ就職  
2019年 森林施業プランナー認定試験に合格  
2020年 「緑の雇用」事業を活用して現場研修を開始

富山県西部森林組合の技師として、森林施業プランナーの仕事に携わる。得意のドローンの操作技術が活かし、森林所有者の方に映像を用いた説得力のある説明会を開催している。新たな業務へのチャレンジ意欲や順応力が高く、今後の更なる活躍が期待される。

 富山県西部森林組合

## —Interview—

### ■ 就業のきっかけ

もともと自然が好きで、大学では環境問題などについて学びました。卒業後は、自然とは無関係な、様々な仕事も経験しました。

趣味で、ラフティング※1やキャニオニング※2を始め、山へ行くようになりました。山の居心地が良く、山で仕事ができたらいいなと思うようになり、「とやま農林漁業就業支援フェア」に参加しました。林業ブースの担当の方から、森林施業プランナーとして活躍している女性の話を聞きました。その女性の下で、3日間、森林施業プランナーの体験をさせていただきました。林業の仕事に就くことに、不安もありましたが、林業で生き生きと活躍している女性の存在が、就業を後押ししてくれました。就業体験後、「これなら自分にもできる!」と思い、就業を決めました。

### ■ 仕事や地域活動のこと

森林施業プランナーの仕事をしています。森林施業プランナーは、数十年先を見据えて森林機能をより良くするための整備を提案する仕事です。具体的には、現地を調査し、整備内容を決め、森林所有者の方の合意形成をおこないます。実際、整備が始まると、現場を管理・監督します。

現地調査の際は、ドローンで山の中を撮影し、その映像を、説明会時に見ていただくこともあります。映像を見ていただくことで、説得力が増し、より整備計画への理解が深まっていると感じます。

また、最近では、航空レーザ測量※3のデータを活用して、森林の実態を把握する取組みが始まりました。新しい技術がどんどん生まれているので、順応するのが大変ですが、新たなことへ何とか適応できているのは、これまで、色々な仕事を経験したおかげだと思います。





森林には多くの所有者の方がおられます。土地の境界が分からない場合も多く、基本的には、森林所有者全員の同意が得られてから整備を開始します。

同意のとりまとめは、所有者の方が県外におられて連絡が取りづらい場合や、世代交代により、所有者が把握できない場合もあり、苦勞することもあります。現場の整備が無事終わった時は、「やりきった!」という充実した達成感が得られます。整備が始まると現場の管理・監督をしますが、整備を進めるうちに、水が染み出してくるなど、想定外のトラブルが発生することがあります。トラブルが起こると、現場の作業が止まってしまうため、現場からトラブルの連絡があった場合は、すぐに現場へ向かい、設計の変更など作業員が安全に作業できるよう速やかに対応します。

仕事をする場所は、現場とデスクワークが半々です。デスクワークは、説明会のための資料づくりや、地図の色塗り等による進捗状況の把握、航空レーザ測量のデータ処理などです。デスクワークで行き詰まってきたら、現場に行き、静かな山の中で、鳥の声を聞きながら、ドローン撮影や作業の進捗状況の確認をすることでリフレッシュができます。

## 一「緑の雇用」事業について

「緑の雇用」事業は、林業経営体に採用された方に対し、講習や研修を行い、技術や知識の習得を支援する制度です。森林施業プランナーの仕事は、実際に現場で作業をすることはありませんが、現場監督をするためには、現場作業も一通り理解することが必要なので、昨年草刈り作業や重機の扱い方等の研修を受け、技術を学んでいます。元々現場が

好きなタイプなので、楽しいですし、現場の方がやっておられることへの理解が深まります。

3年間の「緑の雇用」事業の研修を終えると、現場で作業する知識や技術が身に付き、より一層その地域に適した森林施業を計画できるようになると思うので、これからも地域の方に喜ばれる仕事ができるよう責任をもって頑張っていきたいと思います。

## ■目標やモットーとしている事

負けず嫌いです。特に自分に負けたくない気持ちが強いです。自分でやると決めたことは、決してあきらめず、やり切ることにしています。

## ■これからの夢

好奇心が旺盛なタイプなので、やりたいことは尽きません。最近では、中型バイクの免許や狩猟免許を取得しました。富山の恵まれた自然をさらに満喫し、今後はジビエ料理などにも挑戦してみたいです。また、将来は、自分の山をもち、自分で管理や整備をできればいいなと思います。

## ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

自然に関わるのが好きなので、7年前から始めた、ラフティング、キャニオニングを今も楽しんでいます。

## ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

森林組合には様々な仕事があります。未経験でも、充実した社内研修プログラムがあるので、必要な免許や資格取得、講習なども受けることができます。臆せず、気軽な気持ちで林業に飛び込んでみてください。

※1 大型のゴムボートに乗り、パドルで操船しながら急流を下るスポーツ

※2 溪谷の中を目的地まで下るスポーツ

※3 航空機から照射したレーザ光により地形を計測すること。この計測データを使うことで、樹種の分布や生育状況等の細かな森林の実態把握が可能となる。





濱田 律子さん  
Hamada Ritsuko



黒部市

農業

濱田ファーム

[キーワード]

水稲農家  
家族経営  
直売

### Profile

2006年 結婚を機にツアーガイドの仕事を辞め就農、「濱田ファーム」の情報発信を開始  
2011年 「農産物検査員」の資格を取得。  
2012年 家族経営協定を締結、米の直売所を開設

水稲が経営の主体の濱田ファームで、育苗管理、米の直売、経理および情報発信を担当している。農家としての生活を楽しむ姿は、多くのマスメディアや情報冊子で取り上げられている他、「KAYA DO フリー！」や黒部市国際文化センターの運営委員として地域活動にも貢献する。



hamada farm  
黒部の専業米農家

## —Interview—

### ■ 就業のきっかけ

主人と結婚したことが、農業を始めたきっかけです。千葉県出身で、大学卒業後は、10年間カナダでツアーガイドとして勤務をしていました。その時に、ワーキングホリデーでカナダに来ていた主人と知り合いました。

文学部文学科出身なので、自分から農業に飛び込むことはなかったと思いますが、たまたま、結婚相手が農業をしていたので農業に携わることになりました。

農業に携わることへの抵抗感はありませんでした。むしろ、就職活動をせずに新たな職種につけるのはラッキーだと思っていた。自分は、人生の急激で強制的な変化も楽しめるタイプだと思っています。

### ■ 仕事や地域活動のこと

濱田ファームは夫婦で、水稲を10ha栽培しています。私は、水稲の育苗と米の販売、経理、情報発信を担当しています。

#### — 農産物検査員などの資格取得について

「米の等級がいかんにつけられるか」、「食味の良い米の評価」について疑問、関心を抱いたことが「農産物検査員」の資格や「米食味鑑定士」の取得のきっかけです。自家産米の自己評価や、他の生産者から依頼を受け直売用の米を検査しています。

#### — 情報発信やマルシェへの出店について

就農直後からブログや「濱田ファーム便り」などを活用しながら情報発信をしています。お米は全て直売なので、濱田ファームのお米を知ってもらうための手段として積極的に情報発信をしています。





「濱田ファーム便り」は、月1回発行し、お米と一緒にお客様にお渡ししています。生産者の思いや、お米ができるまでの過程などの情報を伝えることで、お客様に、お米をより美味しく感じてもらいたいと思っています。

農閑期は、マルシェに出店し、お客様と実際に顔を合わせるようにしています。実際に顔を合わせることで、メールでのやりとりも、お客様の顔を思い浮かべながらできるようになり、意思疎通がしやすくなります。

#### 一地域活動について

黒部市三日市で月1回行われる地域交流イベント「KAYA DO! フリー」の運営委員として立上げから、運営まで携わり、今も情報発信を続けています。

また、黒部市国際文化センターの運営委員として、月1回の企画会議に参加しています。企画会議では、委員それぞれが、市民の皆様に喜ばれ、有意義となるような企画の案を持ち寄り、検討したことが、文化センターでの行事内容に生かされています。

文化センターの運営委員に限らず、農業以外の分野でも、自分が興味のある勉強会に、積極的に参加することで、農業以外の職種の方に、農業への興味をもってもらえます。取材を受けたり、記事にしてもらえたりと、結果的に、お米づくりを知ってもらえる機会につながっていると感じます。

#### ■農家になってよかったこと

農家になったおかげで、日々の地道な農作業の積み重ねで、1粒1粒のお米が出来上がっていることを知りました。農家になっていなければ、単なる食糧としてしか見られなかったお米ですが、実るまでの過程を体験できたことは、自分の人生を豊かにしてくれたと感じます。

#### ■目標やモットーとしている事

農業という仕事も含めて、「人生をできる限り楽しむ。」ことです。

#### ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

生活の8割の時間は仕事が占めています。もちろん仕事も好きですが、働くために生まれてきたわけではないので、残りの2割の時間はできるだけ自分の時間を確保して遊ぶようにしています。趣味は、旅行や読書、映画、舞台鑑賞、ピアノ、お菓子づくりなどです。海外旅行は、年に1~2回行きます。世界一周旅行に行くのが今の夢です。

#### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

未経験なことであっても、実際に取り組んでみると何とかなる場合が多いと思います。

また、新しいことにチャレンジする場合、「未経験であること」や、「知らないこと」は、逆に、武器になると思います。経験が長くなると、物事を同じ方向からしか見られなくなり、固定観念にとらわれてしまいます。お米を売るにしても経験がない場合は、色々な角度から、柔軟な発想が生まれると思います。

「経験がないこと」を武器にして、未知の分野へ新しい発想で飛び込んでみてください。





稗苗 史絵さん  
Hienae Fumie



魚津市

農業

ひえばた園

[キーワード]

農産加工

農業委員

自然栽培

## Profile

- 2016年 農業をしている主人との結婚を機に前職を辞め、農業を始める
- 2018年 農産加工品（おやき）の製造・販売を開始。
- 2019年 家族経営協定を締結し、経営主とともに認定農業者となる
- 2020年 魚津市の農業委員となる
- 2021年 富山県農政審議会委員となる

非農家から、結婚を機に就農。中山間地域で自然栽培米を中心に経営を展開する「ひえばた園」において、販売や農産加工品の開発などを担当している。地域貢献への意欲が高く、県内最年少の女性農業委員として地域農業の方針決定に携わる。



## —Interview—

## ■ 就業のきっかけ

主人と出会ったことが農業を始めるきっかけです。それまでは、保健師や看護師などの医療従事者として人と関わる仕事をしていました。そのような仕事をしているとき、主人から、作物が育つ生理的な過程を聞き、人間と作物は似ている部分があるなど農業に興味をもつようになりました。また、彼が「僕は、これまでの農業スタイルと違う農業をしていきたい!」と熱く語るのを聞き、「これは、私が手伝わなきゃいけない」と思い、結婚と同時に仕事を辞め農業を始めました。

## ■ 仕事や地域活動のこと

中山間地域で化学肥料や農薬を使用しない自然栽培のお米を栽培しています。主な役割分担は、主人は栽培を私は販売や農産加工品の開発が仕事の中心です。

お米は全て直接販売をしています。販売に関わる

仕事は、ネット販売の管理、注文票の作成、発送・配達業務、お客様とのメッセージのやりとり、新規の販路開拓などがあります。年間予約表等の印刷物は、学生時代にデザインを学んだことを活かし、自分で作成しています。

農産加工品は、主に農閑期の仕事として、自家製の米粉と地元の野菜を使って4種類の「おやき」を作り、イベントなどで販売をしています。中山間地域で農業をする場合、6次産業化は必須だと思い、取り組み始めました。製造後はすぐに急速冷凍し美味しさと品質の保持を心がけています。添加物等ではできるだけ入れず、消費者の方に、地元の野菜も米と一緒に知っていただけたらいいなと思います。加工品を直売することで、直接、お客様の声が聞けるので、喜びややりがいにつながります。

栽培は主人が中心ですが、草刈りは私もしています。体力がいる仕事なので、夏場は暑さ対策でファン付きの作業服を着るなど快適に作業ができる工夫や体調管理に気を配っています。





### 一医療従事者から農業への転職について

就農し、最初の2～3年は農業での時間の使い方、作業計画の立て方、体力面、収入面などに順応しづらく、試行錯誤でした。特に作業計画は、農業の場合、天候に左右され、計画どおりにできないこともあり、臨機応変な対応が求められるので、とまどいました。こうした生活を続けるうちに、ある時、自分が仕事に振り回されるのではなく、仕事を操るくらいの気持ちで関われば良いと思うようになり、現在は、農業に順応できてきたと感じています。

### 一地域活動について

#### 農業委員について

農業をやるうちに、「この地域の農業は、このままだったら衰退するのでは」と問題意識が芽生えてきました。そんな時、市役所の方から、農業委員をやってもらえないかと声をかけられました。自分にも何か地域の役に立てることがあればいいなと思い引き受けました。

今は、「人・農地プラン」を見直すための地域の話合いが始まりました。月1回の定例会などにより、他の農業委員や認定農業者の方と地域の農業を発展させるためのアイデアを出し合っている最中です。

### ■目標やモットーとしている事

「あおいくま」父から言われていた言葉です。「あせるな」、「おこるな」、「いばるな」、「くさるな」、「まけるな」、の頭文字をとったものです。最後の「まけるな」は自分自身に負けるなという思いで、辛い時に自分に言い聞かせています。

また、チャンスが来たとき、それに対応できるよう、日ごろから、失敗を恐れず飛び込むことや、優先順位をつけて準備しておくことを心がけています。

### ■これからの夢

地域の方々から、信頼し、安心して農地を預けられ、地域農業を担えるような農家なることが夢です。また、地元の直売所の「松倉もちより市」のような地域の既存活動や、地域の伝統的な料理を新しい形で思いを引き継げる体制を整備し、地域を元気にしたいです。

### ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

体調管理も大事な仕事です。体調を整えるために、温泉に行っています。サウナと水風呂は、本当に疲れがとれます。温泉までの移動時間は、夫婦で仕事の振り返りやこれからのことを話し合う大事な時間となっています。

### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

仕事をする中で、女性の活躍は農業を発展させる鍵になると感じています。なぜなら、農業は女性の視点が活かせる分野だからです。また、作物の観察、管理、販売は、女性に向けた仕事だと思います。機械作業や力仕事は、今後、スマート農機やパワーアシスト技術など先端技術を導入することで、女性も携われるようになります。「これからの米作りは女性が中心になっていけばいい」という思いが、私たちにあります。

農業はこれから、女性が活躍する場がどんどん増えてくると思います。私たちも、その土台や受け皿を作りたいと思っているので、ぜひ一緒にがんばりましょう！





松野 由佳さん  
Matsuno Yuka



黒部市

漁業

丸中水産  
株式会社

[キーワード]

北洋漁業  
加工販売  
カフェ

### Profile

2011年 丸中水産株式会社・第一恵比須丸 取締役に就任  
2017年 倉庫を改装し「北洋の館」をオープン

高校卒業後、県外で過ごし改めて地元よさに気づく。2011年に父の経営する「丸中水産(株)」に入社し、取締役に就任。漁獲関係事務、情報発信、加工販売、カフェ運営に携わる。地域住民と一緒に作り上げた「北洋の館」は、地域の憩いの場となっている。自分のペースで一歩ずつ着実に、地元を盛り上げたいという夢に向かって活動を続けている。

北洋の館

## —Interview—

### ■ 就業のきっかけ

父から、丸中水産を手伝ってほしいと言われたことが、就業のきっかけです。

大学は長崎大学の水産学部で、ミジンコの研究をしていました。その後、名古屋で漁業とは無関係の仕事に就き3年半働きました。いずれは、地元に戻りたいと思っていたので、父から、手伝ってほしいと声がかかった時、地元に戻る良いきっかけだと思い、就業を決めました。

### ■ 仕事や地域活動のこと

丸中水産は、サンマの漁獲と加工販売、ギャラリーカフェ兼魚販売所である「北洋の館」を運営しています。黒部の北洋漁業の歴史を伝えることと、新鮮なサンマで魚食の魅力を伝えることをミッションとしています。

サンマの漁獲は、北方四島海域で行われるので

事務所は富山県にありますが、漁船は宮城県の気仙沼市にあります。私の仕事は、漁獲の手続き関係事務と丸中水産の情報発信が中心です。その他、サンマの加工や「北洋の館」の手伝いをしています。

漁獲に関わる仕事は、乗組員の確保、ケガの対応、出航期間中の家族とのやりとりの仲介に加え、船のメンテナンスや許認可手続など多岐にわたります。漁船が気仙沼を出航する際は、父と漁港まで見送りに行きます。船が出航する姿を見るのは心が躍ります。

会社の情報は、ホームページ、ブログ「北洋の館日記」、Instagramを中心に発信をしています。ホームページとブログは2017年から、Instagramは2020年から始め、こまめに更新をしています。

### —北洋の館について

「北洋の館」は、もともとは、何もない倉庫でした。『生地まち歩き』※1の際に参加者からの「休憩できる場所があったらいいね。」の声をきっかけに、2010





年頃から、休憩スペースとして開放を始めました。その後、建物の傷みを改修する際、せっかく直すなら「コーヒーも飲めたらいいね。サンマも食べられたらいいね。」といった、地域の方や利用者の声を聞きながら、手探りで作り上げてきました。地域の方の居心地の良い空間にしたかったので、できるだけ、これまでの雰囲気を残した空間にしました。今は、ギャラリーとカフェ、加工品などの販売所、北洋漁業の歴史が分かる展示スペースを併設した施設となっています。これからも、いろんな方の意見を聞きながらより良い施設に変えていけたらいいなと思っています。

#### 一地域活動について

「生地まち歩き」の観光ボランティアをしています。「北洋の館」の展示場所で、黒部の北洋漁業の歴史を伝えています。市外から生地に来られた方が、「生地っていいね」と言ってくださると嬉しくなります。

「しばんば保存会」※2にも加入しています。公民館や小学校に出向いて生地の民謡「しばんば」を三味線で演奏しています。

#### ■目標やモットーとしている事

「流れるままに生きていく」自分がこれまでやってこられたのは、周りの方の支えがあったおかげでした。流れにあらがわず、いろんなものの助けを借りながら、流れていく。そしたらいつの間にかたどり着く。そのような生き方をこれまでしてきました。

流れに身を任せつつも、残していけたらいいと自分が思うものは、残していきたいと思っています。

#### ■これからの夢

「北洋の館」を拠点として地域を盛り上げることがこれからの夢です。灯台下のこのエリアが過疎化の最前線にあることを肌で実感すると同時に、この景色はどこにも負けないと思っています。一度、富山を離れていたおかげで、新たな視点で生地を見ることができるようになりました。

「北洋の館」に、夕日を眺めることのできるテラスを造ったり、地域のよさを発信することで、地域に足を止めてもらえるきっかけを当社から作っていきたいです。そして、生地を人が集まる場所にしたいです。

#### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

これからの漁業は、時代が変化する中で漁業への固定観念がない若い女性の力が必要になると感じています。

漁業は、これまで男性中心で行われてきたので、女性が漁業の現場を見た時、男性とは違う切り口で面白みが発掘できたり、改善部分に気づいたりできると思います。

漁業には、多くの改善の余地が残されている分、チャンスが広がっています。ぜひ、私と一緒に漁業を盛り上げていきましょう。

※1 地元のガイドが生地地域の散策コースを案内する取組み(2010年～)

※2 生地の民謡である「しばんば」を保存するために、会員の研鑽、生地小学校での踊り指導、イベント等への出演などの活動を行う。







森田 瑞穂さん 池田 薫さん  
Morita Mizuho Ikeda Kaoru

高岡市

農業

農園 Kitchen  
moriy

[キーワード]

トマト

6次産業化

農家カフェ

### Profile

- 2011年 トマトを栽培する父とともに農家カフェの開店に向け準備を開始
- 2011年 妹の薫さんが、京都の洋菓子店でお菓子の製造に携わる
- 2012年 姉の瑞穂さんが、高岡のレストランで料理の勉強を開始
- 2013年 農家カフェの整備計画が国の六次産業化・地産地消法に基づく事業計画の認定を受ける
- 2014年 農園Kitchen moriyをオープン

(株)森田農園の新鮮なトマトと地元の食材を活用して、料理やスイーツを提供するカフェを姉妹で経営している。トマトの品種からこだわった料理と、丁寧な接客は、地元の方だけでなく、県内外の若者を中心に評判が高く、リピーターが多い。



## —Interview—

### ■就業のきっかけ

**瑞穂** トマトを栽培する父のもとで育ちましたが、農家カフェをするとは思っていませんでした。もともと、ものづくりに興味があり、学校でデザインについて学び、印刷会社に就職をしました。その後、料理にも興味を持ち、市内のレストランで働き始めました。

**薫** 姉はレストラン、私はお菓子の製造の仕事をしていた頃に、農業の分野で、6次産業化の動きが活発になってきました。「2人で一緒に取り組めば、農家カフェができるかもしれない。」気づかないうちに2人のベクトルが同じ方向を向いていました。父の応援もあり、姉妹でカフェを始めることに決めました。

お店を始めると決めてからは、県外を含め、いろいろな所に視察に行き、先輩方の話を聞きながら、カフェ開店までの準備をしました。

### ■仕事や地域活動のこと

**瑞穂** 私たちは、自社の農園で栽培された新鮮なトマトを、料理やスイーツに加工して、カフェで提供する仕事をしています。私が料理を担当し、妹はスイーツと接客を担当しています。

農園では、父が、「モーツァルトを聴かせたトマトは美味しくなる」ということで、トマトを水耕栽培で、モーツァルトを聴かせながら栽培をしています。私は、料理に合わせて特徴をもつ品種を栽培してもらうなど、農園と連携しながら、トマトの魅力を最大限に活かした料理をしたいと思っています。お店の看板メニューは、農園のトマトと、地元のお米を使ったリゾットです。地産地消は大切だと思っています。

**薫** 姉と同様、トマトのスイーツの材料は、卵など、できるだけ地元産を使用するように意識しています。地元で収穫されるものが一番新鮮でおいしいと思います。トマトは、スイーツにすると主張しすぎてしまう場合があるので、適度にトマトの風味が感じられるスイーツを目指して試行錯誤しています。接客は、お





お客様への感謝の気持ちを忘れないようにしています。お客様が、また来たいと思っていただけるよう、笑顔と親切な接客を心がけています。

**瑞穂** 勤務時間は午前7時～午後6時です。11時のランチタイムのオープンに向けて7時から料理の仕込みをし、閉店時間の6時まで仕事をします。勤務時間が長いことは、2人とも気になっているので、お店を長く継続するためにも、作業改善でもっと働きやすい環境づくりをしていきたいと思っています。

カフェと農園の情報は、FacebookやInstagramを利用して発信しています。カフェは、妹が写真を撮り、私が文章を書き、農園の記事は父が書くなど、家族で日々の情報を更新しています。若いお客様もいらっしゃるので情報発信は大切だと思っています。

#### 一地域の活動について

地元でとれる、おいしいトマトの存在を知ってもらいたい思いから、地域のイベントでの出店や、ホテルへの食材提供など、地産地消の活動にできるだけ参加するようにしています。カフェの店内で、ジャズコンサートを開き、トマト料理と音楽を楽しんでもらうイベントを開催したこともあります。イベント企画やチラシづくりは、姉妹で話し合いながら行います。

#### ■姉妹で仕事をする事について

意見交換が常にできる状態なので、色々なことがスムーズに進んでいると思います。気づいたことや、言いたいことは全て、共有しています。時間に追われ、余裕がなくなると、言い合いになることもありま

すが、家族なので一晩寝たら、言い合いしたことを忘れ、いつも通りに仕事が始まります。

#### ■これからの夢

**瑞穂** まだまだ勉強不足ですが、お客様に驚きや面白みを感じてもらえるような料理を提供したいと常に考えています。自社のトマトの魅力を最大限に引出しながら、味付けや料理方法を工夫していきたいです。

**薫** トマトで作るスイーツの種類を増やして、トマトの魅力さをさらに発信していきたいです。

#### ■自由な時間の使い方、リフレッシュ方法

**瑞穂** 友達と食事や温泉旅行に出かけます。

**薫** 友達や主人と美味しいものを食べに行きます。

#### ■新たにチャレンジを考えている方へのメッセージ

**瑞穂** これまで、周りの方に助けられながらやってきました。何かやりたいことがあったら、自分で形にしてみることはもちろん、多くの方に意見を求めることも大切だと感じています。その方が、より良いものが生まれますし、応援してもらえますと思います。

**薫** 姉は、カフェの開店当時から、看板メニューを「トマトリゾット」に決めました。最初は、馴染みのないメニューなので、周りの方からは心配されていましたが、今は看板メニューとしてとても人気があります。姉が、自分の思いを貫いたことはよかったと思います。このように、多くの方の意見はもらいながらも、自分の思いや、考えはぶれない方がよいと思います。





## 農林業の新たな取り組みに関するご相談

### 新川農林振興センター

農業	〒 938-0801 黒部市荻生 3200	黒部庁舎	担い手支援課 経営支援班	TEL 0765-52-0268
林業	〒 937-0863 魚津市新宿 10-7	魚津総合庁舎 3F	森林整備課 林政・普及班	TEL 0765-22-9143

### 富山農林振興センター

農業	〒 930-0088 富山市諏訪川原 1-3-22	諏訪川原庁舎	担い手支援課 経営支援班	TEL 076-444-4521
林業	〒 930-0096 富山市舟橋北町 1-11	富山総合庁舎 3F	森林整備課 林政・普及班	TEL 076-444-4476

### 高岡農林振興センター

農業	〒 933-0806 高岡市赤祖父 211	高岡総合庁舎 2F	担い手支援課 経営支援班	TEL 0766-26-8474
林業	同	4F	森林整備課 林政・普及班	TEL 0766-26-8454

### 砺波農林振興センター

農業	〒 939-1386 砺波市幸町 1-7	砺波総合庁舎 3F	担い手支援課 経営支援班	TEL 0763-32-8111
林業	同	2F	森林整備課 林政・普及班	TEL 0763-32-8131

## 農林漁業への就業に関するご相談

### 公益社団法人 富山県農林水産公社

〒 930-0096 富山市舟橋北町 4-19	富山県森林水産会館 6F	農業部	TEL 076-441-7396
同		森林部	TEL 076-441-6747
同		水産部	TEL 076-431-9595





富山県農山漁村女性活動推進会議 構成6団体 事務局



**JA 富山県女性組織協議会**

〒 930-0006 富山市新総曲輪 2-21 富山県農協会館 7F 富山県農業協同組合中央会内

TEL 076-445-2340

---

**富山県漁業協同組合女性部連合会**

〒 930-0096 富山市舟橋北町 4-19 富山県森林水産会館 4F 富山県漁業協同組合連合会内

TEL 076-432-6222

---

**富山県地域活性化グループ協議会**

〒 930-0004 富山市桜橋通り 5-13 富山興銀ビル 10F 富山県農林水産部農業技術課内

TEL 076-444-3277

---

**富山県農業者協議会**

〒 930-0096 富山市舟橋北町 4-19 富山県森林水産会館 6F (一社) 富山県農業会議内

TEL 076-441-8961

---

**富山県林業研究グループ協議会**

〒 930-0004 富山市桜橋通り 5-13 富山興銀ビル 4F 富山県農林水産部森林政策課内

TEL 076-444-3387

---

**富山県青年農業者協議会**

〒 930-0096 富山市舟橋北町 4-19 富山県森林水産会館 6F (一社) 富山県農業会議内

TEL 076-441-8961





発行 / 富山県農林水産部  
富山県農山漁村女性活動推進会議

2022年3月

**富山県農山漁村女性活動推進会議**  
(プランを推進する農林漁業の6団体)

JA 富山県女性組織協議会 富山県漁業協同組合女性部連合会 富山県地域活性化グループ協議会  
富山県農業者協議会 富山県林業研究グループ協議会 富山県青年農業者協議会